



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター

【小林市社会教育課】Tel.22-7912
【小林商工会議所】Tel.23-4121

古来の日本では、各月を季節感がわかるような和風月名で表現しており、その5番目の月を「皐月(さつき)」としていました。これは旧暦ですので、今の暦では5月下旬から7月上旬頃になります。ちょうど田植えの時期にあたるので、早苗を植える月を意味する「早苗月(さなえつき)」が転じたという説もあります。

市内の小中学校では、多くの学校がJAや営農組合、地域の方々の協力を得て、農業体験をしています。さつまいもや米づくりが主で、そばを育てる学校もあります。もうすぐ芋の苗植えや田植えが始まります。子どもたちの賑やかな声が地域で聞かれることでしょう。



～昨年度の活動より～ (旧学年)

紙屋小 地域に花を植える活動

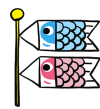
5年生



学校から紙屋大橋を渡り、坂の上の花壇までゴミ拾いをしながら移動。紙屋一徳まちづくり協議会の皆さんと一緒に、金魚草とノースポール、ナデシコの苗を植えました。毎年続けている活動

で、住民の皆さんにも喜ばれています。7月には紙屋中生が植栽を行う予定です。

活動の終わりに、協議会の木下会長から、美化活動へのお礼と、「ゴミ拾いをしなくていいような地域にしていきたい」との呼びかけがありました。



東方中 地域の高齢者に花を贈る活動



以前は、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、直接お渡ししていましたが、コロナ禍の影響で、



ここ数年は、区長さんや民生委員の皆さんなど、地域のボランティアの方々をお願いしています。高齢者の皆さんを元気にしたいという思いを込めて、80数軒のお宅に、手紙を添えてパンジーを届けました。

【原田校長先生】生徒たちの活動が、地域と学校の橋渡しになればと考えています。

【生徒代表】心を込めて育てました。よろしくお願いします。

【ボランティア】皆さんの優しさを必ず伝えます。

(生徒の手紙より) 私たち東方中生は花いっぱい活動で花を育てています。高齢者の皆さんに、ぜひ花を楽しんでもらいたいと思います。春ですが朝から寒いですね。体調は大丈夫でしょうか。ちなみに、この花の花言葉は「もの思い」や「誠実」です。これからも、お元氣にお過ごしください。



野尻小 ボランティア感謝集会



3月に、ボランティアの代表4人の方をお迎えして、感謝の気持ちを伝えました。児童代表のお礼の言葉、感謝状と児童が育てた花のプレゼントの後、お一人ずつ挨拶をしていただきました。

【棒踊り保存会】6月から練習が始まります。また一緒にがんばりましょう。【読み聞かせ・学習支援】今年も素敵な本をみなさんに届けたいと思います。

【学習支援】みなさんの元気な姿に触れて、私も元気をもらっています。【見守り・児童クラブ】「おはようございます」「がんばってください」の挨拶が、とてもうれしいです。

コロナ禍以降は代表の方だけが出席。今月にはボランティア集会(対面式)を行う予定です。

令和5年度、市内の小中学校で活動したボランティアと外部指導者は、延べ26,319名。内訳は、学習支援活動4,427名、部活動指導1,047名、環境整備1,852名、登下校安全指導17,900名、学校行事1,093名でした。(R5年4月～R6年3月)

裏に続きます。

三松小 6年生へのおはなし会



- 【プログラム】◆ 読み聞かせ「たいせつなこと」
◆ ペーパーサート「しりとりが大好きな王様」
◆ 劇「現代版 三枚のお札」 ◆ 教科書クイズ
◆ 偉人クイズ ◆ プレゼント

保護者の読み聞かせサークル「わたぐも絵本の会」による「卒業おめでとう！小学校最後のおはなし会」です。いろいろなプログラムを10数名の保護者が交替で演じ、やまばや校長先生が登場する「三枚のお札」では大きな笑いが起き、クイズではたくさんの手が挙がって盛り上がりました。

「わたぐも絵本の会」は、朝の読み聞かせに加え、全校児童が対象のクリスマスおはなし会と6年生へのおはなし会を毎年行っています。

【感想とお礼の言葉より】◆ 楽しいお話をありがとうございました。これからは絵本などをたくさん読みたいです。◆ おもしろい絵本や劇をありがとうございました。◆ 私は「しりとりが大好きな王様」と「三枚のお札」の話が好きでした。プレゼントもありがとうございました。

◆ 6年間、本だけでなくクイズなど、いろいろな工夫もあって楽しかったです。



西小林中「性暴力被害者支援」講演会



日高親弘さん：警察官を定年退職後、みやざき被害者支援センターに勤務。小林警察署での勤務経験もあり、「懐かしいです」と話されていました。

主な内容は「さぼーとねっと宮崎」の説明・性暴力(デジタル性暴力)とは・性暴力の事例と加害者の手口・位置情報共有アプリの危険性・「さぼーとねっと宮崎」の具体的な支援などです。

「性暴力は遠い世界の話ではありません。SNSで他人になりすまし、徐々に親しくなって…という事件もありました」など、経験を基に、いくつかの事例を紹介してくださいました。また、毅然と断る勇気をもつことや、一人で悩まずに

相談することの大切さなどのアドバイスもあり、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。



【さぼーとねっと宮崎】性暴力被害に遭われた方やその家族の方が、安心して相談でき、必要な支援を受けることができるよう、宮崎県が開設した相談窓口です。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



大工原忠相さん：NEC勤務。2022年から1年間、「大人の地域みらい留学」で西諸に滞在。飯野高校で地域の課題解決のプログラムに携わりました。西諸の温泉が大好きな東京人です。

「VUCA(ブーカ)」と「シンギュラリティ」の話題から始まりました。VUCAは、将来の予測が困難なため、既存の価値観やビジネスモデルだけでは対応できないこと。シンギュラリティ(技術的特異点)は、技術進化が進んだ先に待っている、これまでの社会とは常識が一変する転換点。2045年頃と予想されています。

最初に、量子通信技術やスマートシティ技術など、今後10年から20年の間に出現する未来技術約20件についての説明があり、続けて、シンギュラリティの時代に向けて我々大人が捨てるべき矜持(きょうじ：誇り・プライド)は？というテーマでお話をしてくださいました。

グループトークでは「シンギュラリティの時代に向けた人材教育」と「そういう時代の個人や地域の課題」について考えました。どんな時代になるのかを想像するのは難しく、意見をまとめるにいいテーマではありましたが、未来社会に対する参加者の意識は高まったと思います。

まとめで、大工原さんは、人材育成について、ご自身が考える3つのポイントを示されました。

- ◇ 保護者は自己の再生産をやめる。(自分の経験だけで子どもを育てることをやめる)
- ◇ 学校は地域の教育機関としての役割、教育者としての誇りを確認する。(時代が変わっても学校がなくなることはない)
- ◇ 自分の地域の未来を、大人が真剣に考える。

最後に、「未来社会に向けて大人が矜持を捨て、何かを一つずつ変えていく姿や、新しいことにチャレンジする姿を子どもたちに見せることが大切ではないでしょうか」と、締めくくりました。

★「てなむ」は、“KSSVC”で検索すると、市のホームページでご覧になれます。

